



心も体も元気なふなぼりーと

令和8年 11月号 園だより

江戸川区立船堀幼稚園

—教育目標—
元気な子ども
明るい子ども
考える子ども
思いやりのある子ども

園長 東 美和

～力を合わせて みんなで元気に頑張るぞ!～

運動会が終わって2週間が過ぎましたが、今でも子どもたちが運動遊びや一斉活動をする前になると、「力を合わせて みんなで元気にがんばるぞ エイエイオー!」というかけ声が聞こえてきます。どちらの学級も教師が合図を出すことはなく、子どもたちから自然に声があがってくるのです。

運動会では、子どもたちが自分なりの力を発揮して、さまざまな競技に取り組み、楽しむ姿が見られました。個人競技だけではなく、年少組は玉入れ、年長組は綱引きやバルーンといった学級の仲間と一緒に取り組む競技がありました。運動会の練習期間中、子どもたちは「今日頑張ったところはどこか?」「どうやったらもっと上手くなれるのか?」を毎日みんな話し合っていました。それぞれ自分が頑張ったところや友達のいいところを見つけ、次はどうしたらいいのかを考えるのです。互いの考えを聞き、良さを受け止め合い、もっと上手くなれるように頑張ろうという気持ちを育てることができました。『力を合わせてみんなで頑張ったから、楽しかった!』という達成感をもてたから、今でも園内で元気なかけ声が聞こえてくるのでしょう。

子どもたちの様子を見て、これは文部科学省の幼稚園教育要領が示す『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』であると感じました。『10の姿』とは、幼稚園生活が小学校以降の学びや生活の土台となるような幼児の具体的な姿を示しています。その中の「協同性」では、『友達と関わる中で互いの思いや考え等を共有し、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる』とあります。年長組は、就学に向けて育みたい姿です。しかし年少組はどうでしょう。まだ早いでしょうか?実はこの姿を育てる留意点として『5歳児だけではなく、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある』と示されています。年長になって急にできるようになることではない、日々の教育の積み重ねが、小学校以降の学習や生活の基礎につながることを改めて感じます。

2学期も後半になります。これからも日々の遊びや生活、行事を通して子どもたちの協同性をさらに育てられるよう、充実した保育に取り組んでいこうと思います。



星の組 行船公園遠足
平成庭園で岩にジャンプ



ばら組
広場で よーいドン!



星の組 チャレンジ
竹馬の練習をしているよ